

食堂

もともとは寺の事務所（「政所屋」と呼ばれる）だったこの建物は、奈良時代（710～794年）に建てられたものだが、平安時代（794～1185年）に僧侶のための食堂として使われるようになった。当時の奈良時代の建築の特徴を数多く備えている。日本語の「食堂」は、今日では一般的には「しょくどう」と読み、レストランや食事をする場所という意味で使われているが、古代においては、食べることそのものが信仰のひとつのかたちであり、食堂は祈りの場でもあった。現在は4月8日にこの食堂で仏陀の誕生日を祝う「仏生会」という儀式を行う。